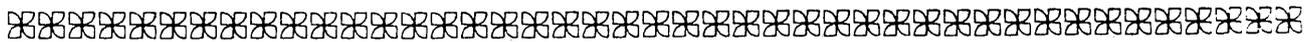


臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成11年(1999)新春号





年頭での思い

東京支部長 佐伯 益 一 (旧中27回)



同窓各位には新しい年を、恙なくお迎えの事とお慶び申し上げます。平成10年は一つの節目の年として大いに期待を持って迎えたわけではありますが、いやはや ともでもない年になってしまいました。政治の混乱、経済不況、汚職、犯罪の激増等々、これに加え不順な天候等、数え上げればきりが無いぐらいで日本の前途はどうかと心配しているのは敢えて私一人ではないと思えますし、既に皆さま御存じの通り。ここでは触れないことと致します。

平成11年は国内が、否、世界中が平穏無事、些かなりとも明るい進展が見えてくれれば良いと願っているところですがそれがそれも期待薄、むしろ大事件、大事故、大異変が起こるような気がしてなりません。くれぐれも、心配り怠りなくお過ごしくださいと祈るのみです。

ただ最近、日本の歴史を見直そう、戦時中の歪曲された事柄を是正しよう、教育を考えようとの動きが微かながら巷間に湧き上がって来ているのを力強く感じ、好ましく思っている昨今でもあります。

さて過年8月16日開催された母校同窓会本部の総会に深見洋子さんと共に出席してきましたが意外と出席者が少なく内心忸怩たる思いでした。乾杯の音頭を乞われて「いま県内に於て高校の統廃合の問題が論ぜられていることは東京にいても聞こえてくる。母校が生き残るためには学校と同窓会とが一致団結して頑張らねばならぬ」と杯を挙げたが、あまり反応はなかったようでした。

役員改選では昭和58年8月以来 15年間に亘り会長を勤められた茂野敏郎さん(旧中17回卒)と副会長の貝瀬弘さん(旧中28回卒)が勇退、夫々感謝状と記念品の置き時計が贈られました。(東京支部からは昨年の支部大会で茂野会長に記念品をお贈りしてあります)長い間ご苦労さまでしたと改めて感謝申し上げる次第です。新会長には副会長の伊藤淳一さん(旧中33回卒)が昇格副会長には藤田暉輔さん(旧中30回卒) 渡辺照男さん(旧中31回卒)が新任、石塚達也さん(旧中32回卒)が留任で3人の副会長が選ばれました。

母校創立90周年を間近に控えている折から今後益々のご活躍を期待しております。

二次会も無く おかげでタクシーを利用することも無くその日の内に鹿瀬の実家に帰ることが出来ました。

さてそこで 私どもの同窓会東京支部ですが、その運営、催事につき常に格段のご配慮、ご協力を頂いておりますことに厚く御礼申し上げます。

現在支部会員名簿に登録されている会員の数は男女合わせて約320名ですが、うち年会費納入者は平成9年度までの5年間で多い年で271名、少ない年で238名

平均250名となっております。寄付金納入も金額にして会費の約3割を超えています。特に嬉しく思うのは、在町在郷の私の同級生が「佐伯が支部長を勤めている限り、みんなでバックアップしよう」と折にふれて高額な寄付金を送ってきてくれることであります。会費納入や寄付行為により、同窓の交流が深められ、団結が強くなるものと信じております。おかげをもって支部大会の開催や、会報発行、その他の行事が円滑に行われることに相成り 誠に有り難いことと感謝しております。

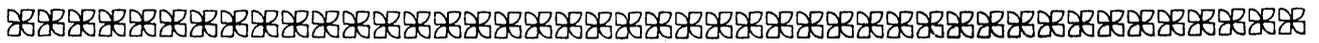
次に 先の支部大会の際にも一言触れましたが平成11年4月1日より 同窓会東京支部の名称を新潟県立村松高等学校 東京同窓会 と改称することになりました。長年親しんできた名前ではありますが、東京周辺の各高校同窓会の名称等を調べてみますと関東地区同窓会とか 首都圏同窓会 何々地区同窓会とかの名称が極めて多く、支部と呼んでいる同窓会は割り合いと少ないようでした。夫々独自性を持っているようでしたがって真似するわけではありませんが、過去の動き、実績等を勘案し、視野を広め 独自の活動を図る為にも この際思いきって名称を変えた方がよいと提案し、過去2回の役員会で確認、決定したものであります。ちなみに本部会則を読みますと支部に関する事項は第4条目的達成の事業第4項に 支部活動の援助協力、とあるのみで他には見当りませんでした。

嘗て 各支部に対して幾分なりとも補助金を出すべきだと主張したことがありましたが取り上げられませんでした。東京支部としてはその方が返って良かったのかも知れませんが、何とぞご理解をいただきたいと存じます。

また 故中村事務局長の後任として平成7年9月に就任した 鶴巻浩事務局長(高10回)が先の大会時を以て辞任されました。3年近くの間 多忙な会社業務の傍ら熱心に職務を遂行されて来られた労苦ご努力に対し深く感謝の意を表します。代わりまして高7回の八木又一郎さんが選任されました。因って事務局も別掲のとうり、移動することになりました。勿論、会費等の振り込み先も変わりますが3月末までは今までの番号と併用です。4月からは新しい振り込み番号一本になります。

母校に図書を贈る運動も別に記してありますがこれもよろしくご協力の程お願いいたします。最後になりましたが 冒頭に述べた私の心配事が杞憂に過ぎれば大変結構なことではありますが、寒さの折、お体にはくれぐれもお気をつけください。

新年を迎えるにあたり 同窓各位、関係各位の変わらぬ友情と ご多幸であることを 心から願ひ念じましてご挨拶に代えます。



東京支部の皆様へ

平成10年8月の同窓会総会で、茂野会長さんの後をお引き受けすることになりました。村松高等学校は平成13年に創立90周年を迎えることとなります。

創立80周年を期として、同窓会は母校の長期低落傾向からの脱出をテーマに掲げて、地元の村松支部を中心にして、一生懸命母校活性化に取り組んできました。そして一進一退ではありますが、その成果は僅かながらも実を結びつつあり、本年度は20名余りの四大合格者を出しました。しかし一方では大幅な定員割れがありました。今後さらに少子化の傾向が続き、高校進学者の町外流出の割合が高まれば、近い将来母校の消滅という深刻な問題も起こりかねない状況にあります。



村松高校同窓会会長
伊藤 淳一（中33）

現在の同窓会の緊急な課題は、90年近い輝かしい伝統と2万名におよぶ同窓生を出した母校を守り通し、より魅力ある高校へと発展させることにあると思います。

東京支部の皆様には今までも、いろいろご助言、激励を頂いておりますが、今後益々のご理解とご支援を下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

次回の東京支部大会には是非出席させて頂き、皆様と親しくお会いして歓談できるのを楽しみにしております。

古里の秋を想う

東京同窓会の皆様、お元気ですか。六月六日の総会では多数の会員の皆様にお会いできて大変楽しかったこと、母校を、村松町や古里を大変懐かしく、また心配されている皆様の気持ちを強く感じたことが、つい昨日のことのようにも感じられます。

総会のご挨拶にも申し上げましたが、私の出身地は愛知県の岡崎市（徳川家康の生誕地）東部の農村地帯です。

小さな頃を思いおこすと、表日本・岡崎の十一月は毎日晴天が続き、米の取り入れと秋祭りも終り、息つく間もなく麦撒き仕事で忙しかった頃、日が暮れて回りが見えなくなるほど暗くなって、やっと仕事が終わったことなども懐かしく思い出されてきます。

毎日近所の家はみんな空っぽで、老いも若きも全員が畑仕事に精を出した、まさに「天高い晴天続きの収穫の秋」であった記憶があざやかに蘇ってきます。現在では様変わりして昔の面影も少なくなったようですが、私の思い出に残る古里・岡崎の十一月の風景です。

新潟に来て、いつの頃からか朝起きると真っ先に窓を開け、空をみるようになりました。春夏秋冬、欠かさぬ習慣となっています。原因は、私の経験になかった、この頃から始まる新潟の「しぐれ」の季節と、長い冬に向かう大変さにあったように思われます。表日本にお住まいの皆様には、すべてお分かりのことと思いますが……。

新潟に来て生徒から教わった「花カルタ」、当初そこにある季節の花や風物を、特に関心をもって考えてもいませんでしたが、秋の終りから始まる「しぐれ」の季節が気になり出した頃、十一月の花カルタが「しぐれ」というのも、新潟に住んで初めて納得できたことの一つでした。恐らく初めから表日本にずっと住んでいる人達には、分からない、気が付かないことだろうと思われます。

岡崎で育った人間が、毎朝一番に見て気になる空模様これからは「しぐれ」の時期から「みぞれ」へと進み、



村松高等学校長
内田 力

やがて「雪」の季節に変わっていく。新潟でも比較的都市部での経験しかない私は「降雪」や「積雪」には、さほどの困惑を感じたことはありませんでしたが、曇り空、それも「裏日本特有の低い雲」には、なかなか慣れることが出来ず、それでも、さほど気にならなくなったのは、新潟に来て十四・五年経ってからだと思われれます。現在でも一番苦手なことの一つである事は間違いありません。新潟県を舞台とした小説・雪国の作者でノーベル文学賞作家の川端康成先生は、受賞講演の中で「美しい日本の心は、越後の四季と良寛の歌にある」と述べています。ここでは良寛様のことはさておき、春夏秋冬の区切りがはっきりして、人の心に喜びと感動を与える新潟の四季、生徒に新潟で自慢できるものを聴いてみると、必ず上位に挙げられる古里の四季、古里を離れても必ず懐かしく語られる越後の四季、私はこんな新潟が大好きになりました。それにしても、これからの新潟の季節、大地をスッポリと包み込む白一色の雪の季節、私にとっては苦手な、頭を上から押さえ込まれるような天井の低い曇天の空…。

雪が消えはじめ、天候も暖かな陽射しの戻ってくる春、待ち兼ねたように一斉に咲き始める草木の愛らしい可憐な花、これほど待ち遠しい気持ちにしてくれる新潟の冬も、ひょっとすると私は好きになってきたのではないだろうかとも考えているこの頃です。皆様の思い起こす古里の秋は、どんな秋でしょうか。



第 41 回東京支部大会

◎第41回東京支部大会は、6月6日（土）高輪の品川プリンスホテルで、母校及び県人会関係の来賓16名を迎え、会員104名が出席して開催された。

定刻午後2時より総会は型どおり進行、特に今回は本年3月定年退職された吉川益男前校長の後任として西新発田高校から赴任された内田 力校長は「伝統ある村松高校の名誉を汚さぬよう精一杯の努力を尽くす」と力強い挨拶、県人会を代表して廣川広報委員長からは「松高同窓会の一糸乱れぬ団結に賞賛」の祝辞。続いて役員に入ったが幹事全員の推挙と亀嶋 謙氏（中22）の推薦の言葉のあと、就任の挨拶に立った佐伯支部長は「私は第九代目の支部長、本年で15年目になる。そろそろ潮時と思っていたが辞めさせてくれぬ」と前おきして「役員全員が留任することが第一の条件、この際副支部長を複数設けたい」と提案、異義なく承認された。

また近い将来、同窓会の視野を広め独自の活動を図るためにも同窓会東京支部の名称を村松高校東京同窓会と改称したいと述べ同意を得た。全員で記念写真の後、第二部の懇親会は、最長老の小田恕也氏（中16）の乾杯発声で始まり、日本舞踊、尺八吹奏、フラダンスなど……県人会婦人会のおけさ踊りには校長はじめ喜寿傘寿を超える先輩たちも輪に入り圧巻であった。

恒例の抽選会では、各自持ち寄りの景品がもれなく渡り、また広島市在住の白石キヨ氏（高3）寄贈のオタクソースを全員にお土産としてお持ち帰り願い、とにかく楽しい一時であった。同窓会はいつも斯くありがたいものと痛感する次第である。

◎抽選会の景品、ご寄贈頂きありがとうございました。

祝 電

総会おめでとうございます。
出席できなくて残念です。今後、益々のご発展をお祈りいたします。

6月5日 村松高校同窓会長 茂野 敏郎





第41回 東京支部大会出席者名簿

平成10年6月6日(土) 品川プリンスホテル 新潟県立村松高校同窓会東京支部

来 賓 (16名)	旧中学校 (20名)	高校男子 (57名)	
村松高校 同窓会長 茂野 敏郎 様	16 小田 恕也	02 青木 猛 篠川 恒夫	11 田代 信雄
村松高校 校長 内田 力 様	17 市川 薫平	03 渡辺 八郎 関 孝世 土田 猛 伊藤 勤吾	12 今井 英雄 安部 実 笠原 久守 荒川 守 木村 安雄 武藤 正昭
同窓会担当教諭 鈴木 亮一 様	20 伊藤 達郎 橋松 宏平	04 鈴木多喜男 弦巻 等 下野 文幹 鈴木 健司 大島 惣四郎	18 佐々木 秀和 三室 茂和 高岡 英治 笠原 静夫
同窓会事務局 伊藤 ヒサ 様	22 亀嶋 謙	05 金子 鶴男 新井 康夫 樋口 栄二郎	高校女子 (23名)
新潟県人会 広報委員長 廣川 高志 様	24 芳原 英男	06 佐久間英輔 五十嵐 健 岩倉 富栄	
東京鹿瀬会 幹事長 波田野亮一 様	26 武藤 三郎	07 八木又一郎 笠原大四郎 長谷川洋太 伊藤 和賢 田沢 敬司 遠藤 昭	
東京鹿瀬会 渡部 廣次 様	27 吉田 公男 佐伯 益一 西山 莊平 伊藤 秀男	08 山崎 輝雄 石本 芳雄 塚田 勝清 吉井 匡秀 佐藤 覆 伊藤 輝雄 鈴木 正春 松尾 正春	
村松町より 女19 大塚 イミ 様	30 佐藤 豊夫 相田幸四郎 坂上 庸蔵 五十嵐 一郎 岩見 益教	09 石黒 四郎 斉藤 収二 阿部 敏 間藤 謙一 熊倉 富次	
女20 牛腸 ハル 様	32 成海 正弘	10 大橋 貞夫 鶴巻 浩三 高岡 雄三 小日山 芳栄 新保 優 宮沢 正由 近藤 尚志 滝沢 信喜 本宮 勝 桐生 三男	
女22 滝沢 佳子 様	33 斉藤 和男 伊藤 勇五 遠藤 順		
女25 酒井 エミ 様			
女25 吉原 敦子 様			
新潟県人会同好会 細谷 シズ 様	旧女学校 (4名)		
高橋 和子 様	25 岡本 和子 小林 早月 佐藤 玲子 鈴木 節子		
落合三重子 様			
松本 春子 様			
			来 賓 16名 会 員 104名 総 計 120名



第41回 村松高校同窓会東京支部大会 収支決算書

平成10年6月6日(土) 品川プリンスホテル 28F 苗場

収入の部

支出の部

(1) 懇親会々費

男子	77名	@10,000	770,000
女子	27名	@ 8,000	216,000
小計(1)			986,000

(2) 来賓ご祝儀

同窓会本部	様		30,000
廣川 高志	様		10,000
波田野亮一	様		10,000
渡部 広次	様		10,000
高橋 和子	様		10,000
細谷 シズ	様		10,000
落合三重子	様		10,000
松本 春子	様		10,000
酒井 エミ	様		10,000
大塚 イミ	様(4名様)		30,000
午腸 ハル	様	-----	
滝沢 佳子	様	-----	
吉原 敦子	様	-----	
小計(2)			140,000

(3) 会員寄付金

笠原 静夫	様		7,000
遠藤 順	様		5,000
笠原 久	様		5,000
山西愈佐子	様		5,000
木村 孝子	様		5,000
岡部 ユキ	様		5,000
吉井 清	様		2,000
深見 洋子	様		2,000
片桐 ムツ	様		2,000
真水 道子	様		2,000
小計(3)			40,000

大会収入合計(1~3=A) 1,166,000

(1) 準備日

幹事会費	4月18日	7,017
印刷費		6,800
通信費	郵便切手	30,400
	返信ハガキ	19,000
送料		2,020
雑費		14,672
小計(1)		79,909

(2) 大会費

懇親会費	品川プリンスH	800,410
持込酒代	24本	51,000
来賓土産代	10名分	28,560
二次会接待費		45,170
謝礼	4件	43,085
交通費		11,820
記念写真代		21,641
雑費		4,459
小計(2)		1,006,145

支出合計(1~2=B) 1,086,054

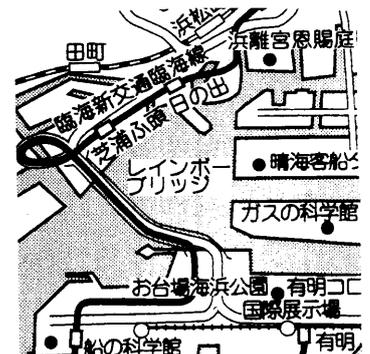
(合計)

収入合計(A) 1,166,000円

支出合計(B) 1,086,054円

残高 79,946円

◎なお、残額金79,946円は一般会計へ繰入れ致しました。





☆ありがとうございました

◎平成9年度 会費納入者（41回大会当日分）
岡部 ユキ（以上1名…敬称略）

◎会報送付御礼・寄付金（敬称略）

二平 一男（中27・五泉市在住）	10,000 円
須佐 平助（中27・新潟市在住）	5,000
田崎 正一（中中退・津川町在住）	4,000
白井 信栄（中27・村松町在住）	3,000
木村 貞一（中27・新潟市在住）	2,000
神林 春雄（中27・柏崎氏在住）	5,000
伊藤 淳一（中33・村松町在住）	10,000
（以上7名）	

◎上記の会報寄付金は一般会計に繰入れました。



お知らせ

平成10年度、会費納入者及び寄付金納入の方々のご芳名は、10年4月1日から11年3月31日までの一年分を一括して、次号に掲載させていただきますのでご了承下さい。よろしく願いいたします。

ちょっといい話

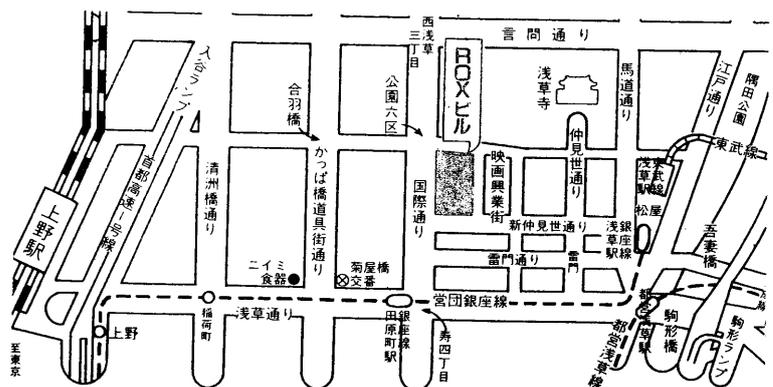
◎佐伯支部長は会議の席で、よく古風なサムライ言葉をつかう。「おのおの方、相い分かり申したか」と。すると女性役員が「ハイ、分かり申した」と答えている。一杯会で酔いがまわってくると「もの共相い分かったか」となる。嫌みは感じない。本人は大まじめである。楽しい雰囲気である。

平成11年度 東京支部大会開催のお知らせ

平成11年度（第42回）
村松高校同窓会
東京支部大会

月日 6月5日（土）
時間 午後2時より
会場 浅草ROX
ニューオータニ

お誘い合わせの上、多くの方々のご出席をお待ちしております。



お便りの中から

市川 薫平 (旧中17回)

◎過去数年間、同窓会を欠席しておりましたが、今年出席してみても、楽しい同窓会に変わっておりましたのには驚きました。面識のない人達でも、同郷の気やすさから話はずんで、閉会になってもお喋りをさせていただき誠に楽しい一日を過ごさせていただきました。

写真ありがとうございました。益々ご自愛の上ご活躍の程、念願いたしております。

伊藤 達郎 (旧中20回)

◎松高同窓会では色々ご配慮をいただき、会が極めて盛会裡に終了いたしましたことを、心からお喜び申し上げます。また当日の写真をたくさんご惠贈賜り誠にありがとうございました。いつも撮影は未熟だと謙遜しておられますが、まずいのは被写体の方で画面の仕上がりは上々でありました。毎回お世話になりっ放して恐縮ですが、今後ともご指導下さるようお願いいたします。

佐野 宏 (旧中20回) 新潟支部長

◎東京支部大会号をお送り下され、ありがとうございました。貴支部は益々盛んでむしろ羨ましく思っています。それに比べてこちらの支部は、地元に近いせいか役員の努力にもかかわらず総会を開いても、二千名近く在住しているながら百名を切る程の出席者です。従って会費の納入もままならぬ有様です。

この対策として、先日役員会を開きその打開策をたてました。それには、旧制中学卒の役員の代わりに高校卒の人から多数役員を推すこと。先ず支部長を更え、次の新陣容を一気に決定、総会で正式決定することに決めました。(私は貴支部の佐久間精一氏と同級)

村松高校は漸く芽をふき出しましたが、旧制の中学校でありながら、こうまで落ち込んだものかと知人、友人から冷やかされています。この学校を立て直すには同窓会が縁の下の力にならなければならない事は言うまでもありません。幸いに同窓会員で県都で大活躍している人が多く居り、この人々の力で立て直したいと思っております。

中村 市雅一郎 (旧中26回) 新潟市在住

◎前略 巻頭言「このままでは日本語が減ぶ」を拝読して、大いに我が意を強くした次第であります。辞書を活用してより多く読み、そして書く生活よりも安易な見る聞く環境に育った世代が増えた現在、大いに考えさせられる問題であると痛感しております。

相田 幸四郎 (旧中30回)

◎皆さんに会えるのが何よりの楽しみです。次回も又。

滝沢 佳子 (旧女22回) 村松在住

◎東京支部大会にお招きを戴き、大変楽しく過ごさせて頂き、又あんなに盛大に。皆様の心意気に接しまして私達ももっと頑張らなければという思いで帰って来ました。

会を盛り上げようとあんなに皆様が協力して居られる様子に接しまして、やはりやる気の佐伯様のお人柄が皆んなを、あの様に自然に盛り立てているのだと本当に力強く感じて参りました。故郷の学校を思い、その活力を与えて下さるその姿が頼もしく「やはり東京支部は違うな」という思いでございました。……後略……

吉田 公男 (旧中27回)

◎いつも写真を頂くばかりで恐縮です。あの会のムードが良く出ていて、とても嬉しく思いました。

牛腸 ハル (旧女20回) 村松在住

◎東京同窓会にご招待頂き誠に有り難うございました。母校を思っ集まれる皆様の熱気と盛り上がり非常に感動致しました。思いがけない方々にもお逢いでき昔話をする事も出来、東京の方々の団結の固さに敬服して帰りました。尚お土産まで頂き重ねて御礼申し上げます。

鈴木 亮一 (高13回) 同窓会担当教諭

◎無事帰りました。滞在中は大変お世話になり誠に有り難うございました。身に余るおもてなしを受け、温かい気持ちで過ごさせて頂きました。東京の同窓のお元気で素晴らしい人柄を拜見して頼もしく思いました。楽しい時間と場所有り難うございました。

成海 正弘 (旧中32回)

◎当日、何十年ぶりかで力強い松城健児の応援歌を聞き且つ歌い、五泉駅頭での壮行会の様子を彷彿と思えました。本当にありがとうございました。

田崎 正一 (旧中々退) 津川在住

◎いつも懐かしい会報をご惠送賜り、生きて行く励ましをいただいております。兄のご活躍は誠に貴重です。

※ この度の支部大会に出席された方々及び会報を受領された方々から、たくさんの礼状やお電話が寄せられておりますが、紙面の都合で全部掲載する事が出来ません。大体、同じような文面ですので割愛させて頂きます。ご氏名洩れがあるかも知れません。悪しからずご了承願います。

小田 恕哉、亀嶋 謙、芳原 英男、五十嵐一郎、坂上 庸蔵、岩見 益教、大塚 イミ、吉原 敦子、酒井 エミ、遠藤 順、青木 猛、篠川 恒夫、関 孝世、鈴木 健司、白石 キヨ、渡辺 厚子、田中 富子、吉川 益男、以上の皆様からもお便りをいただきました。ありがとうございました。

お便りの中から

村川 英三（高6・上越市在住）

◎この度、思いがけず、東京支部会報をご恵送いただき有り難うございました。東京の空の下でも同窓の皆さんが、肩を寄せ合い励ましあって生活して折られる姿を思い胸の熱くなるものを覚えます。

これからも東京支部がますます発展し、皆様の親睦の輪が広がりますよう心より願っております。

伊藤 三男（高6・村松町在住）

◎会報ありがとうございます。ふるさと講演会の報告文は、同級生の今昔が偲ばれ面白く読ませて頂きました。還暦を過ぎてから特に健康が第一と常々思っております。お互いに丈夫で長持ちしましょう。東京支部の益々のご発展を祈念いたします。

佐々木栄一（高6・村松町在住）

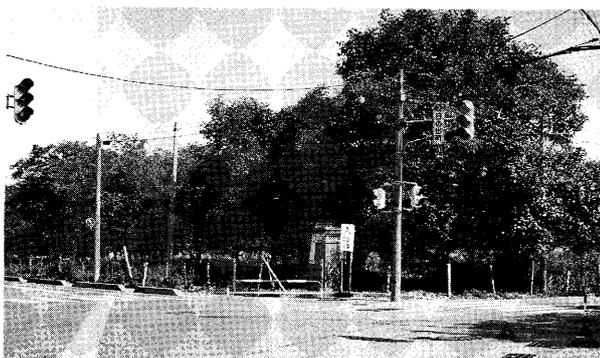
◎松高同窓会東京支部、会報を送っていただきありがとうございます。会報により大勢の同窓生の方々が首都圏で活躍されている事を知り、大変嬉しくなります。

村川英三氏の、ふるさと講演会報告は良くまとめているいただき、同級生として感謝しております。東京支部の益々の繁栄と皆々様のご健勝をお祈りいたします。

相田 孝助（高6・村松町公民館長）

◎会報「臥龍が丘は緑なり」をお送りいただきありがとうございます。同窓会活動を東京支部の皆様が精力的に展開しておられることを初めて知りました。母校の地元に住んでいる者として全く恥ずかしい次第です。

紙面の内容も実に充実しており、幹事の皆様のご苦労がしのばれ、会員の方々のご協力など唯々感服し、ふるさとは遠くにありて思うもの、という感を深くした次第です。また、ふるさと講演会も貴兄に紹介いただいて、主催した私にとって望外の喜びであります。東京支部の益々のご発展をお祈りいたします。



村松旧軍隊の正門跡

伊藤 ヒサ（同窓会本部事務局）

◎第41回支部大会で役員の皆様は本当にご苦勞様でございました。大歓迎をしていただき感激して帰って参りました。厚く御礼申し上げます。

東京の皆様とは、3年ぶりにお逢い出来て嬉しゅうございました。これからも、いろいろご指導の程よろしくお願いたします。貴支部の益々のご発展と皆様のご健康を祈念申し上げます。

武藤 三郎 様へ

岩倉 富栄（高6・富士宮市在住）

◎この度は写真をご恵与賜り有り難く拝受いたしました。私は同期生の沢出君の勧めで、初めて東京支部大会に参加させて頂きましたが、先輩方のプライドの高さとパワーに圧倒されました。

現在、静岡で“田舎の秀才高”に勤務しております。毎年、東大・京大に15名程度の合格者を出していますが、皆んな“のんびり”と教育を受けています。

丁度、お便りを頂戴した日に、外務省から派遣されて海部優子氏（海部元総理は義父にあたる）が講演のため来校され「日本の外交と国際化」というテーマで話されました。竹下元首相から村山元首相まで、通訳として外国や国内でのトップ会談、宮中での晩餐会など豊富なエピソードを交えながら、これからの日本の立場と方向性について示唆を与えて下さいました。

やっ評判の悪い政府にもこんな洒落た企画が、平成七年度から実施されていること自体に喜びを感じ、一服の清涼剤になったことは確かです。また、海部優子氏は、外務省では皇太子妃・雅子様と同期で親しい仲だった様子が話しの中から感じとれました。

ちょっと良い話

新潟駅の「みどりの窓口」で特急指定席券を購入しました。ナント扱っていたのは若い女性で愛想も良く、テキパキと処理していました。後で駅員に訊いてみましたら、もう五、六年前から実施しているとのこと。大卒を採用しているが、平成11年からは高卒も採用の予定である。一定の研修期間を経てから現場に出すが、今は研修中であるとの答が返ってきました。

それにしても、あまりにも見事な対応でしたので思わず「つり銭はいらないよ」と言ってしまいました。
(伯)



旧中27回クラス会

昭和17年春卒業（遠い昔となりました）の旧中27生のクラス会が9月28日新潟県岩室村間瀬 田ノ浦温泉「海華亭かわい」で、18名が出席して開催された。新潟駅から迎いのバスに乗り込み、よく晴れた佐渡ガ島を右に見ながら約40分程でバスは宿に着く、月末のウイークデーであったが宿はほとんど貸切り同然。

部屋に入るや否や早速碁盤が並べられ碁会所と化す。挨拶もそこそこに開宴となれば孫のような3人のコンパニオンを相手にダンスに興じ、カラオケに声を嗚らす。

翌朝は早くから碁会所、女将差入れの「越の寒梅」ももの足らず追加してまた飲む、帰りは新潟日报社前の「新潟ふるさと館」を参観、競って土産物を買う。新潟駅まで送ってもらい、昼どきと称してまた飲む。とにかく よく飲んだ二日間であった。

平成11年度は東京地区が当番となる。懐友が一人、二人と欠けて逝く、寂しい限りである。各位の健在を祈る。
(佐 伯)



旧中30回クラス会

10月3日（土）すっかり秋の刈り入れが済んだ越後平野の西はずれ 岩室温泉のホテル富士屋に於て旧制村松中学第30回（昭和20年卒）のクラス会が往年の美少年？ 33名の参加で開催されました。

記念の証拠写真（奥様用か？）を撮った後、宴会に入れば70名は居るといわれる岩室芸者の中から選りすぐられた名妓5名が彩りを添え 根っからの酒豪連は大喜び、酔う程に氣勢を上げ、それはそれは大変な盛り上がりとなりました。二次会では無類の歌好きが何人もいて齢を忘れての熱演は深夜まで続きました。

翌朝は朝食後ホテルで解散ということで、お互いに来年も元気で会おうと口々に約束しながら 晴れやかな顔で、お別れとなりました。

吾々はもう先が短いので毎年クラス会を開こうと全員で決めてからここ数年は毎年実施している次第であります。



「松城終始会」同期会

10月11日「松城終始会」の同期会が秋晴れの岩室温泉 ホテル富士屋で同期44名が出席して開催された。一日目はホテルのバスを利用して 弥彦神社を参拝、夕刻ホテルに入り記念撮影後 6時から懇親会を開く。岩室のキレイどころが加わり宴はいやが上にも盛り上がった。一同、呑み、且つ喋り、歌い、時間を忘れて2年ぶりの再会を喜び合った。

翌日は 地元の宝山酒造、五合庵を見学、寺泊魚市場を散策 土産物などの買い物をして、昼食の後再びホテルのバスで村松駅へ帰着、そこで解散となった。

この会は 昭和18年入学で昭和23年旧制中学最後の第33回の卒業組と 一部の者で もう一年学校に残った昭和24年新制高校第1回の卒業組でもって組織しており、従って旧制の終り、新制の始めの卒業生であることから 会の名前を「松城終始会」と称している。



高3回・同期会（昭和26年卒）

ぐずついた天気が続き梅雨明けも遅れ、コメの作柄も心配されている日本列島、めずらしく全国的に晴天と猛暑が続いた7月中旬の13日、同期会が開催された。

今回は、村松在住者が当番幹事ということで、遠くは広島からの参加者も交えた総勢62名（東京かんろく会からは10名）が、元村松小学校跡に建てられた「さくらんど会館」に集合した。

早速、幹事さんの計らいよろしく、希望者21名は学校訪問のため用意されていたバスに乗り、当時の面影を残している懐かしい村松の町並みを車窓から見ながら、やがて、昔のままの赤レンガの校門前に降り立った。

門脇の赤松群もこころなしか年老いた感じもしたが健在で、夏の日差しをさわやかな松風に変えて、久しぶりに訪れた我々を迎えてくれた。

学校では忙しい中、時間を割いてくれた校長、教頭の案内で在学当時とは様変わりした校内を一巡した。同期の江口君（村松高校の美術担当教師）の指導による学生達の油絵の大作が、廊下の随所に掲げられており我々の心をなごませてくれた。また、音楽室には、村松大火の折、有志の手で女学校の講堂から猛火のなか運び出されたピアノ、かの有名な「スタインウェイ」が大切に保存されていて、同行した女性達は手で触れて感激に浸っていた。そして、訪れたそれぞれは、バレーボール、ブラバンの練習、書道、絵画等の課外活動に励む後輩を眺め若い時の積み積もっている思い出と心の中で対話しながら、およそ半世紀前にタイムスリップよろしく、しばし学生気分浸った。

夜は、村松から程近い「紫陽花の里」としても有名な湯田上温泉「ホテル小柳」に宴が用意されていた。

ホテル8階屋上には、越後平野が一望できるような露天風呂があり、旅の疲れをいやしてくれた。

代表幹事の開宴の挨拶に続く恩師の挨拶もそこそこにあれやこれやを祝し、また折念して「乾杯」、宴は始まった。宴会は、みんな昔のサイズに戻り、どこにもここにもウツトリさせられるムカシ話であふれていた。

圧巻は、なんと言っても二次会、ご多分にもれずマイナー指向となり「カラオケ」、伴奏が終わるまでスポットをあてられたヒーローになって喜んでいる人、それを我慢して楽しんでいる人……これも同期会文化、歌の曲目も「青い山脈」「誰か故郷を思わざる」……ヤクザ、マドロスものまで、どれもテレビなどもなく、歌が溢れている現在に比べ、貧弱な環境の中で過ごした私達年代の感慨ひとしおのものばかり、宴は夜更けまで続いた。

青春に浸った一夜も過ぎた翌朝、2年後の新津（次回は新津在住者が当番幹事）での再会を約し、お互いの健康を祈念して解散した。

同期会は、大切なものの対象が変わっただけの者の集まりで昔も今も同じ。 幹事さんに感謝！

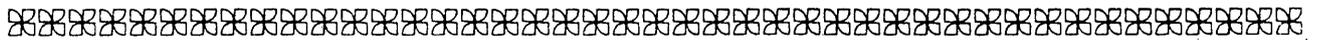
亀山 知明（高3，東京在住）



校門前……学校見学に向った有志が校長先生を中心に…前列右から二人目が剣持さん 第十一代校長先生の息子さん



時計前……蒲原鉄道利用者にとって、朝夕の登下校時大変役にたってくれた時計台箱の下、右側には、大正十二年二月十一日 左側は、私ノ小サイ奉仕…とある



高校第4回・同期会 (昭和27年卒)

平成10年10月3日(土)～4日(日)に、同期会が西蒲原郡・岩室温泉「ゆもとや」で開催された。昔の美少女と美少年が総勢62名参加し大盛会となった。

今回は、会津若松市から卒業以来初めて参加された、高井金平氏の乾杯音頭で開宴となり、夜更けまで旧交を暖め合い、散会後は大勢の人が、それぞれの部屋でいつ迄も語り合っていた。

同期会はタイムマシンに乗って青春時代に戻ったような雰囲気を感じ出します。

楽しく、嬉しく、懐かしく、ちょっぴりほろ苦い有意義な夕べであった。「次回また元気で会いましょう」と企画し準備された幹事諸氏の努力の賜物でした。ほんとうにありがとうございました。

翌4日は“同好の士”3組で隣接の「新潟ゴルフ倶楽部」でゴルフプレーに興じた。久しぶりの快晴のもと、角田山の山麓で更に英気をやしなった。

鈴木 健司



スタート前の英姿



任意団体において指導的役割を果たす人物像についての条件

はじめに

先般 ある友人から電話があって「所属する団体で役員を選ぶのだが難行している、何か基準になるようなものがあったら教えてほしい」とのこと「そうだな、別に基準というものはないが、なんと言っても人格が第一だな」と答えたものの、折角の事だからと思い付くままに二、三喋った。「良いことを聞いた、申し訳ないが今の事をメモ書きでもよいからFAXで送ってくれないか」との願い。早速送信したが、後日それを整理補稿したのが下記の文章である。同窓の中でいろいろの団体に参画して居られる方も多と思うので、多少なりとも参考にしていただければ幸いと存ずる次第である。

① 常に役員会や会合に出席している人。

全てとはいわぬが常々会合に出て、会の目的を充分に理解しており、会の運営その他について経過を知悉していることが大切である。欠席勝ちの人がたまに出席し、くどくどと質問するのは時間の浪費。不明の点あらば予め周りの人に訊いておくべきであろう。

② 会の運営、行事等について熱心であり且つ情熱を持っている人。

会合に出席だけで発言が無ければ意味が無い。たとえ間違っていたとしても積極的に、しかも簡潔に発言し行動することが肝要であろう。間違いがあれば他の人

が訂正してくれる。人の意見に耳を傾け、その発言中は、妄りにこれを妨げないことが大切。

③ 野性的魅力のある人。

人格論は別として、第三者がこの人なら信頼し、その指導に対して支持協力できる人。対外的な立場もあるが、肩書き重視の傾向は避けるべきであろう。自由奔放さも、時には必要とすることもあるのだ。

④ ある程度のアルコール類を嗜む人。

これは絶対的な条件ではないが、会合のあと懇親会として酒席が設けられる機会が多い昨今 私は酒が飲めぬからと云って中座するのは良くない。私の知り合いで一滴も飲めぬ人がジュースやウーロン茶を飲みながら最後まで付き合い酒席を盛り上げてくれる人がいる。これには出席者全員が感謝し喜んでいる。進行を務める人は程良いところで終宴を告げ、その後再び宴を続ける配慮が必要(これをホントの意味で中めめという)あとは無礼講だ。

※ 他にもいろいろの条件もあると思うが これ等を100%要求するのは中々難しい。ある程度の妥協も必要であろう。

(旧中 27回 佐伯 益 一)



表紙説明

「式三番城町屋台」

村松町指定有形民俗文化財

この屋台は、第6代藩主・堀 直教公（1785～1795）が村松藩の繁栄を願って、今から約210年前の天明8年（1788年）に名工5代目・小黒杢右衛門に命じて造られた“踊り屋台”です。

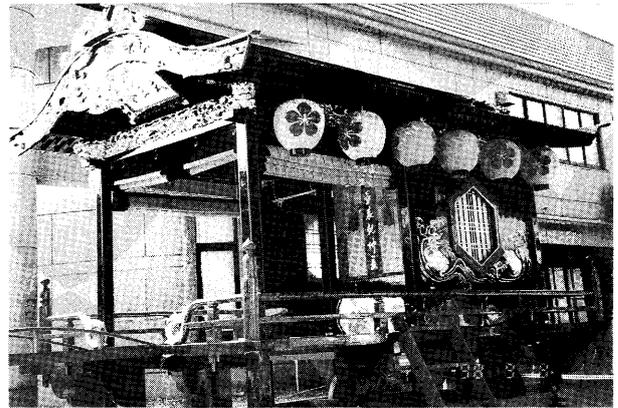
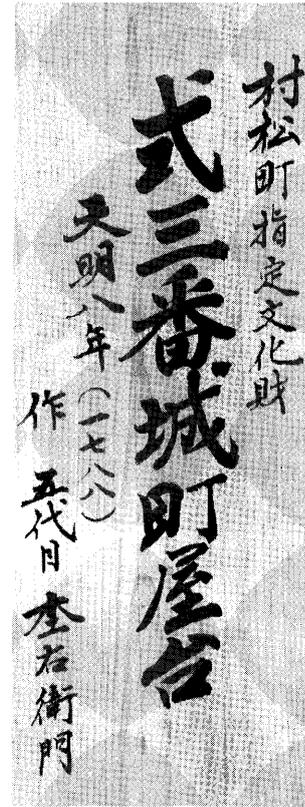
屋台の大きさは奥行 4.6m、間口 2.8m、全高 3.9mで、屋台は踊り易いように柱の間隔、欄間の高さなども考慮され、かつ強度にも十分留意して造られています。

当時の製作としては、技術的に高度で黒漆塗にし金模様彫刻をほどこした豪華なものであります。そして関東系の平屋造りの屋台で今に残っているものは珍しいと言われています。神社の祭礼には、この屋台で踊りを披露して町内を巡回し、町の繁栄・産業の発展を願ってきました。

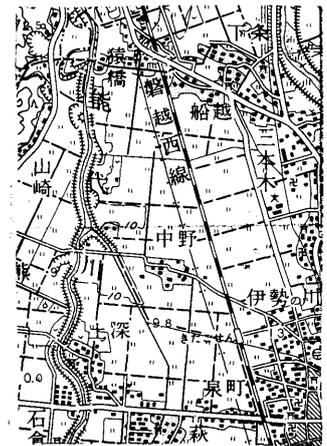
屋台は最盛時には、この屋台のほか上町仲町屋台、下町屋台と3台ありましたが、いずれも焼失しこの屋台だけが後世に伝えられることになりました。

しかし近年傷みも著しく、昭和33年を最後に引出されることがなくなりました。豪華な彫刻と近隣にない珍しい屋台でもあり、平成6年1月28日に城町町内会から町に寄贈されたのを機に、今回、平成6年8月から1ヶ年をかけ村上市在住の美術工芸家・細野 実さんの手で見事に修復されたものです。

すばらしい屋台をどうぞ御覧下さい。



菅名岳・大蔵岳・不動堂山（村松町阿弥陀瀬より）



磐越西線と能代川



母校に手持ち図書を贈ろう

村松高校同窓会東京支部会員の皆さんの家庭で蔵書として保管されている書籍類は、きわめて多いと推察されます。これらの本は一読後また読みなおしをしたと思っていても時間がなく、遂々本棚に死蔵されてしまった本、感銘を受けたので是非他の人にも読んでもらいたいと思う本。

愛着があるので人にも貸せないし（貸した本は絶対に返ってこないと言ってもよい）古本屋へも持って行きたくない本等、お持ちの方がおられるのではないのでしょうか。しかも新刊書が発行される度に買って本棚が満杯となり、遂には部屋の隅に積み重ねられていることが想像されます。

従ってこの際思いきって、これらの本の一部でも母校に寄贈して生徒の皆さんに有効に活用して頂けたら如何なものかと考え、支部会報「臥龍が丘は緑なり」25号にも触れておきましたが、7月の幹事会にも提案し協議の結果、表題に示すごとく賛同を得たものがあります。勿論、生徒の皆さんの教養を高め、社会常識を広め感性を深めるための図書に限られることは言うまでもありません。ある女性幹事の方は「私は高校三年間、図書委員をしていましたが自分で読んで“これは良い本だなあ”と思った本はぜひ友人にも薦めたいと思った。そして、それを実行しました」。また、ある男性の幹事は「何か良い本はないかと何度も図書室へ行ったが読みたいような本は無かった」と言っていたのが印象的でした。

この際、同窓会東京支部活動の一環として「母校に手持ち図書を贈る運動」を大々的に展開するものがあります。母校の内田校長先生とはすでに打合わせ済みであり期待されているところです。

東京支部会員・図書寄贈者

(敬称略……平成10年10月31日現在)

氏名	現住地	卒業回数
木村 孝子	横浜市青葉区	高 8
青木 猛	神奈川県厚木市	高 2
山西愈佐子	東京都小金井市	高 8
佐伯 益一	東京都江戸川区	旧中 27
杵淵 政海	東京都練馬区	高 2

尚、支部事務局で確認できないものは不掲載です。

支部幹事会では、98年10月末日を第一次目標として既に実施段階に入っており、成果は挙げている筈です。この度、広く会員の方々にも拡大し今後も引き続き運動を続けてゆきたいと考えているところです。何卒ご賛同の上ご協力をお願いいたします。

尚、図書寄贈に伴う送付方法については下記要領ですよろしくをお願いいたします。

◎図書を母校へ贈る要領

- ① 会員各自が贈りたい図書を選択し母校宛に送る。
郵便番号 959-1700
住所 新潟県村松町新町
県立村松高校 校長 内田 力 様
電話番号 0250-58-6003
FAX 0250-58-1142
- ② 寄贈図書の種類は、随筆、小説、歴史、紀行、伝記、戦記、歌集、解説書等、種類部数は問わない。
- ③ 送付時には所定の様式で、図書名、送り住所氏名、卒業年度・回数を記入し同封。A4紙横使用
- ④ 送料は原則として各自負担としますが、事後支部事務局宛に請求すれば実費を支払うか又は図書券をもってこれに代えることがある。
- ⑤ 母校に図書を寄贈した旨、支部事務局に連絡して下されば会報に氏名を掲載させていただきます。（⑤の件については任意です）
- ⑥ 寄贈した図書の取扱、処理はすべて学校側に一任し異議を申し立てない。（佐伯 益一）

拝啓 秋冷の候、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたびは、本校図書館に貴重な図書をご寄贈くださいまして、誠にありがとうございます。

芳名を書物に記し、誠意を表しますとともに生徒の学習や教養に役立て、貴意に添いたいと存じます。

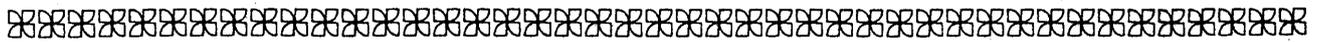
また、今後とも本校の発展にお力添えいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

平成十年十月二十二日

東京支部長
佐伯 益一 様

新潟県立村松高等学校
校長 内田 力



お知らせ

村松高校同窓会東京支部の名称は
平成11年4月1日より次のようになります。

新潟県立村松高等学校東京同窓会

会費納入及び連絡などの宛先は下記の通りです。

事務局 〒157-0061

東京都世田谷区北烏山3-13-15-104

(八木又一郎 方)

電話番号 03-3307-1048

郵便振替番号 (振替口座申請中です)

☆従いまして、略称は {M.T.D} となります。

今後とも、よろしく願いいたします。

訃報

・ 沢出 晃夫氏 (高9回)

平成10年6月2日 逝去

・ 関山 健芳氏 (中24回)

平成10年9月9日 逝去

謹んで哀悼の意を表し

ご冥福をお祈りいたします。

1998年 全国高校野球 新潟県大会成績

1回戦 7月16日 ○村松高8-1羽茂高

2回戦 20日 ○村松高9-8村上桜ヶ丘高

3回戦 23日 ●村松高4-6高田北城高

新潟県代表・甲子園出場校 新発田農業高校

事務局移転のご案内

◎ 東京支部事務局は、平成10年10月より
下記へ移転いたしました。

① 住所

〒157-0061

東京都世田谷区北烏山3-13-15-104

(八木 又一郎 方)

新潟県立村松高等学校同窓会東京支部

② 電話番号 03-3307-1048

③ 郵便振替番号 (振替口座・申請中)

★菊の花を添えて……

文化の日、午前10時から村松町・蒲沢会館において、昭和28年度、村松高校野球部キャプテンとして、部員をまとめ率先して猛練習に打ち込み、我々を新潟県大会優勝まで導いてくれた、故・武藤 実君(五泉市)の葬儀告別式が、しめやかに執り行なわれた。永遠の別れに同級生をはじめ大勢の人々が焼香に訪れ、突然の死を悲しみ、それぞれの思い出を胸にご冥福を祈りました。「武藤急死! 10月31日、自宅で心筋梗塞のため」。11月1日午前10時、新津市在住の明間君から我々野球部同期生に訃報が伝達され、6名が葬儀告別式に参列致しました。別れに際し黄色の菊の花を武藤君の顔の周りに供え、彼が大切にしていたバットとボール、平成9年出版の「新潟県高校野球熱戦譜」を棺の中へ……。武藤君やすらかに! 沢出 越允(高6・東京在住)



1998年の主な出来事

- 1月・8日、15日首都圏大雪
 - ・20日 東証一部平均株価 ¥16,366...1ドル 129円
 - ・帝京大ラグビー部、日体大スケート部が集団婦女暴行事件で部活動停止
 - ・大蔵省金融検査官の収賄事件発覚…ノーバンシャブシャブでM.O.F担が活躍……三塚大蔵大臣辞任
- 2月・郵便番号七桁となる
 - ・長野で第18回冬季オリンピック開催
 - ・14日 東京地方の最高気温23.1度を記録
 - ・25日 韓国大統領に金大中氏が就任
 - ・28日 大同コンクリート倒産
- 3月・山一ファイナンス倒産……負債 1,712億円
 - ・長野パラリンピック開催
 - ・14日 関東地方に春一番…東京の最高気温16.7度
 - ・映画「タイタニック」興行収入世界歴代第1位
 - ・27日 東京都心「桜開花宣言」
- 4月・6日 明石大橋開通（工事期間10年）
 - ・15日 東京デイズニーランド開園15周年
- 5月・20日 東証一部平均株価 ¥15,653...1ドル 136円
 - ・大関「若の花」第66代横綱に昇進
- 6月・日本生命が架空人件費で10億円の不正経理発覚
 - ・サッカーワールドカップ・フランス大会開催
- 7月・香港「チェクラップコック新空港」開港
 - ・12日 第18回参議院選挙 投票率58.84%
 - ・25日 和歌山市の夏祭りで「毒カレー事件」発生
 - ・30日 小淵内閣誕生
 - ・31日 ガルベス投手（巨人）審判めがけ危険球
- 8月・2日 関東地方梅雨明け。新潟地方豪雨
 - ・第80回全国高校野球大会で横浜高校が優勝
 - ・三田工業が10年におよぶ粉飾決算の未倒産
 - ・中国・揚子江などで大增水、被災者 2億4000万人
 - ・クリントン米大統領「不適切な関係」を証言
 - ・栃木県那須町で豪雨、那珂川は大洪水となる
- 9月・防衛庁で水増し請求返納額を不正圧縮の背任容疑
 - また、NEC等は水増し請求で詐欺容疑
 - ・65才以上の高齢者人口が 2,049万人と過去最高
 - ・新規参入の航空会社スカイマーク、福岡へ第一便
 - ・8月の完全失業率 4.3パーセントで過去最悪
- 10月・大リーグ本塁打王はマグワイア、70本
 - ・NTTドコモ・株初値 460万円
 - ・プロ野球、横浜が38年ぶりに日本一となる
 - ・23日 日本長期信用銀行が国有化され46年の歴史に幕。事実上、破綻処理されることになった
 - ・額賀防衛庁長官への問責決議案、参議院で可決
- 11月・18日から、33年ぶりに「大流星群」観測
 - ・27日 多摩都市モノレールが上北谷（東大和市）から立川北駅までの、5.4キロで開業

編集後記

明けましておめでとございます。旧年中は、ご支援ご鞭撻を賜り誠にありがとうございました。本年も何卒よろしくお願ひ申しあげます。☆一九九九年が始まった。世紀末となるか、二十一世紀への期待の年になるのか。とにかくコンピュータの二〇〇〇年問題が大詰めの年になりそうである。☆母校に図書を贈ろう。佐伯支部長の年来の願ひが、ネスバス新潟館で開かれた幹事会で了承され、すでに会員の方から、一五冊も贈られ母校から礼状が届いている。☆本が蘇る。本を贈るには送料を負担することになるが、眠っている本、不要になった本を後輩達を読み、役立ててくれたら本も本望であろう。ぜひご協力をお願いしたい。☆今年四月一日から、東京支部の名称が変わる。村松高校東京同窓会となる。全国各地の高校同窓会における名称を調べてみると、ほとんどが東京同窓会だという。☆規約も検討中。組織の活性化のために、規約の一部変更も必要である。しかし、名称や規約がどうであれ、年一回開催される大会に一人でも多くの同窓生が参加することが本当の活性化である。☆六月五日（土曜日）が大会である。盛會にするには同期生同志がお互いに連絡し会って参加することである。友達同志で話すことが一番の楽しみであり、喜びだからである。☆平成十一年度（第四十二回）大会は、浅草R.O.Xニューオータニで、ぜひ皆様とお会いしたいと願っています。

平成 11年 1月 第26号

発行人 新潟県立村松高等学校同窓会東京支部 広報部
 事務局 〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 3-13-15-104
 (八木又一郎 内)
 電話番号 03-3307-1048